

第3章 ニーズ調査（住民アンケート）結果について

1 ニーズ調査の概要

(1)調査目的

平成27年4月に施行された子ども・子育て支援法に基づく新たな子ども・子育て支援の制度のもとで、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5年間の一期とする「第2期中央市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画的に給付・事業を行ってきました。この計画期間が令和6年度で満了となることから、新たに「第3期中央市子ども・子育て支援事業計画」を策定します。策定にあたっては、教育・保育事業、地域子育て支援事業の「量の見込み」を算出する必要があります。小学生以下の子どもをもつ家庭を対象に「現在の利用状況」や「今後の利用希望」等に関するアンケート調査を実施しました。

(2)調査期間

令和6年7月1日～ 7月19日

(3)調査対象及び回収率

調査対象	発送数	回収数			有効回収率
		郵送	WEB	計	
未就学児	1,184	242	293	535	45.2%
小学生	1,478	340	379	719	48.6%
合計	2,662	582	672	1254	47.1%

(4)調査の内容

ニーズ調査の内容については、巻末の資料編に掲載。

(5)記号について

単一回答・・・1項目のみ選択して回答する。

複数回答・・・あてはまる項目を複数回答する（一部回答数を限定しているものもある）。

自由回答・・・回答者の考えを自由に記入する。

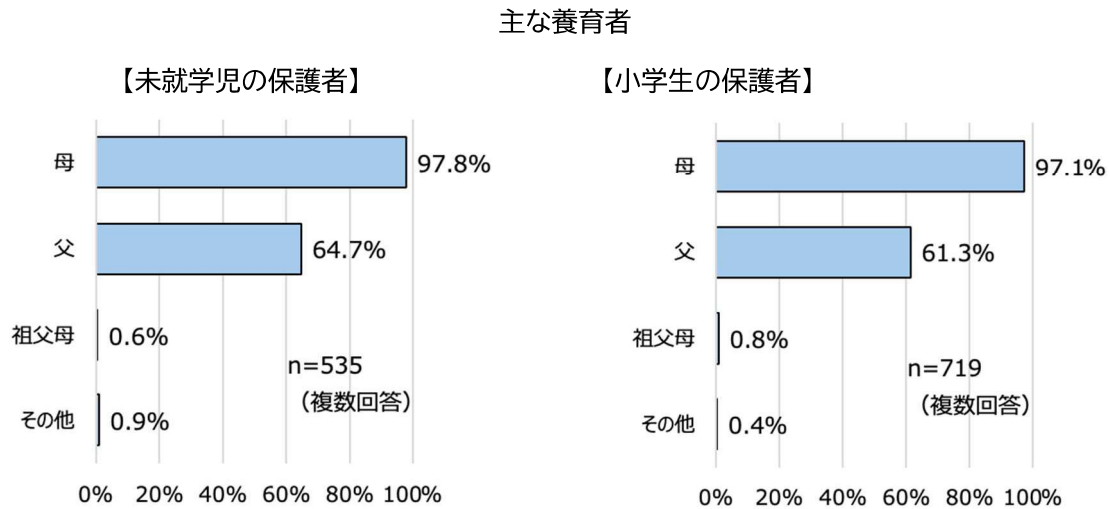
n・・・・・・回答者数（number）を表す。「n=100」は、回答者数が100人ということ。

※複数回答の場合は、合計値が100%にならない場合がある。

※単一回答の場合は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合がある。

2 ニーズ調査結果

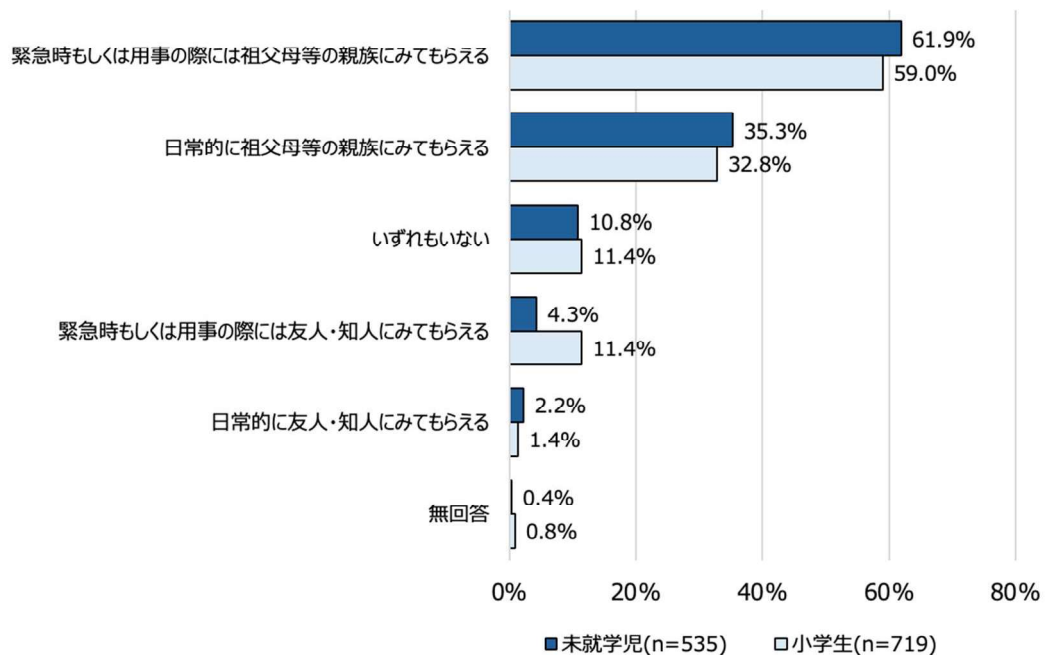
(1)主な養育者について



未就学児、小学生ともに「母親」が9割以上で最も多く、次いで「父親」が6割程度となっています。

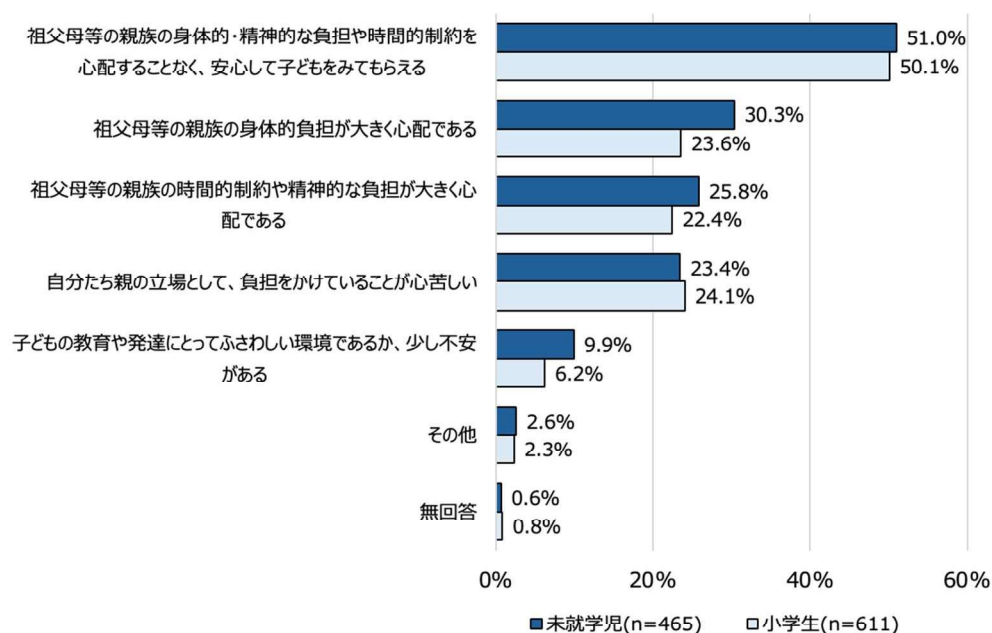
(2)日常的もしくは緊急時にみてもらえる人がいるか、また預かる人の負担について

子どもをみてもらえる親族・友人



未就学児、小学生とも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が6割程度と最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が3割程度となっています。ただし、未就学児の10.8%、小学生の11.4%は「いずれもない」と回答しています。

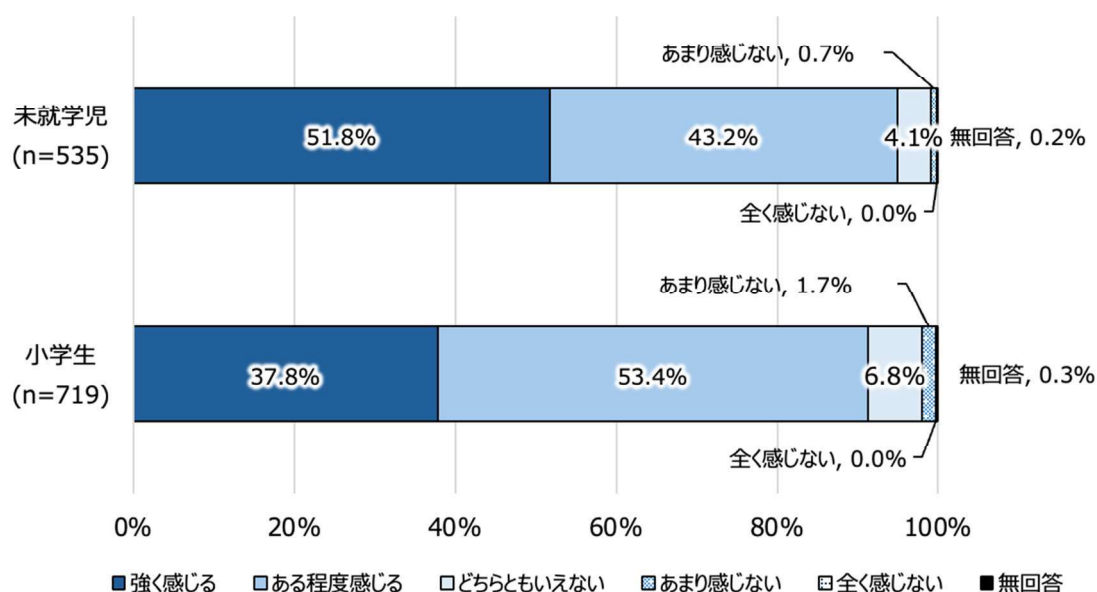
子どもを見てもらっている状況



未就学児、小学生とも「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多くなっていますが、特に未就学児では、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」30.3%と多くなっています。

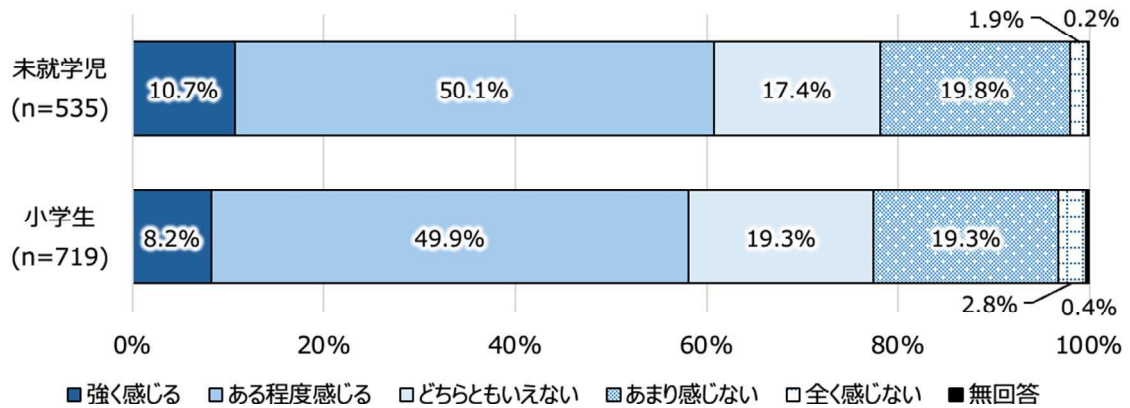
(3)子育ての中で感じる楽しさや負担について

子育ての中で感じる楽しさ



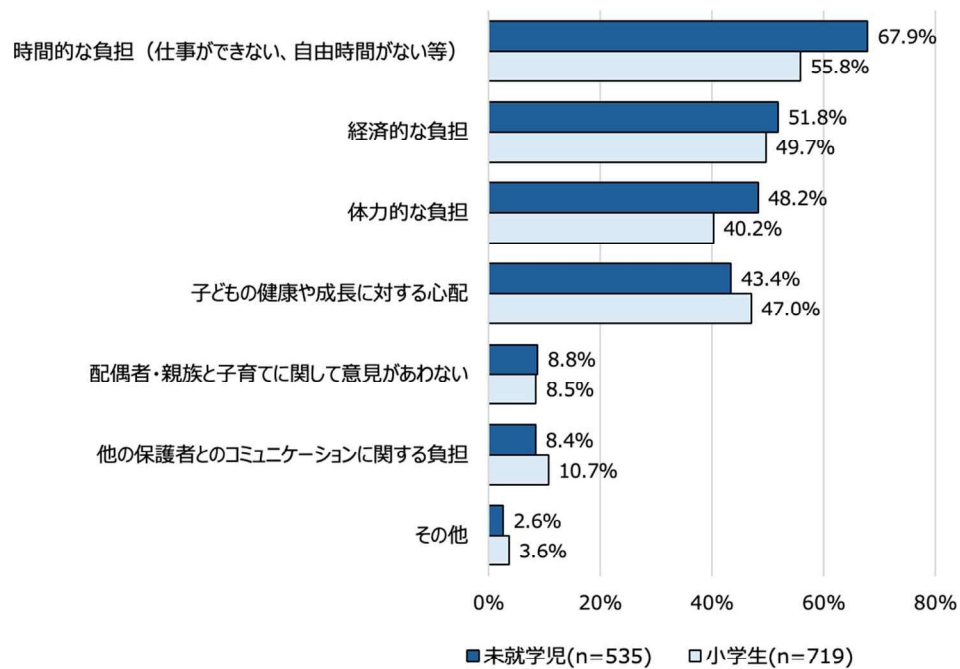
未就学児の51.8%、小学生の37.8%が「強く感じる」と回答しています。「ある程度感じる」も合わせると未就学児・小学生とも9割以上が楽しさを感じています。

子育ての中で感じる負担、辛さ



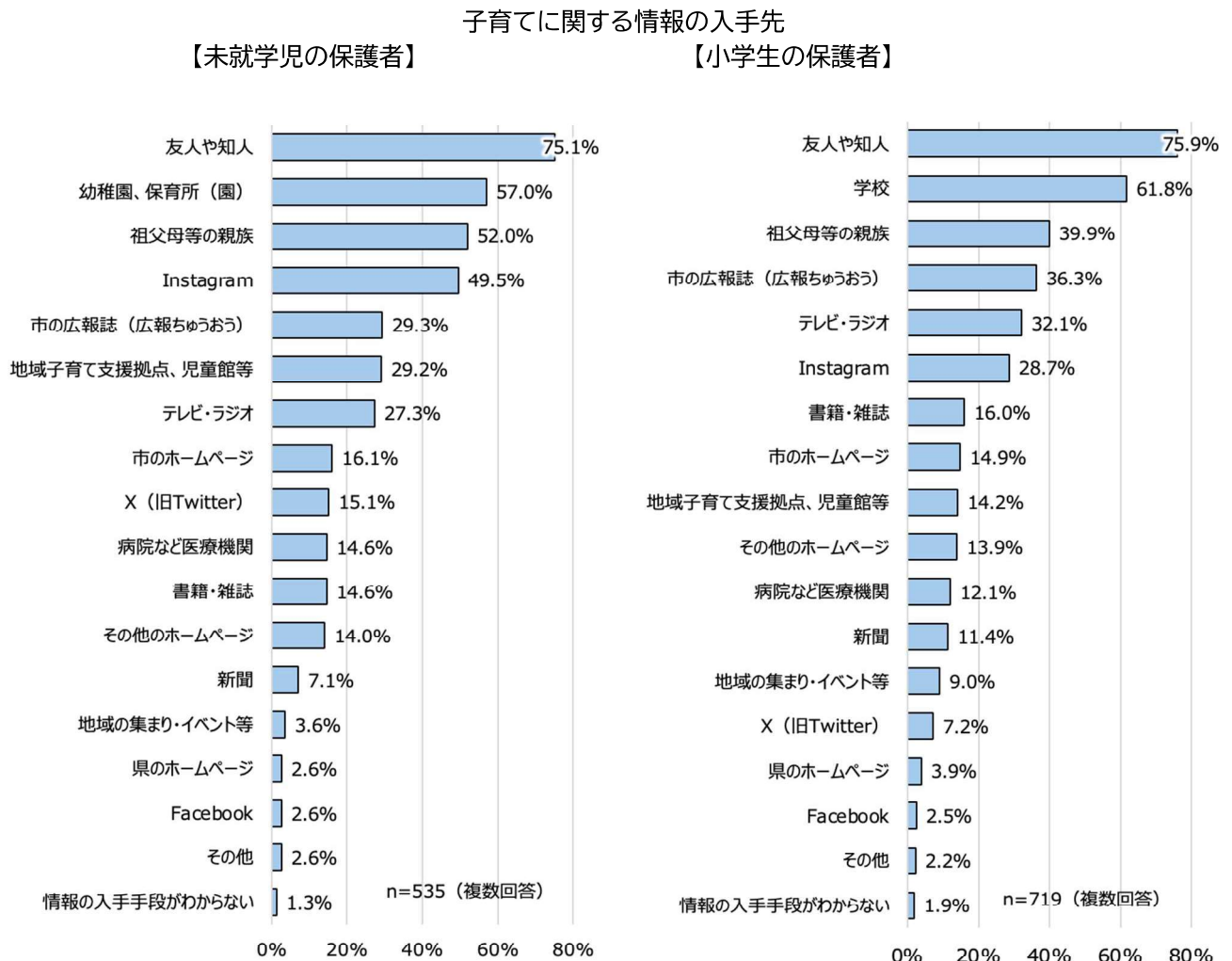
未就学児、小学生とも 10%程度が「強く感じる」と回答しています。「ある程度感じる」も合わせると未就学児・小学生とも 6 割程度が負担、辛さを感じています。

子育ての中で感じる負担、辛さの理由



未就学児、小学生とも「時間的な負担 (仕事ができない、自由時間がない等)」が最も多くなっています。特に、未就学児では 67.9%と高くなっています。

(4)子育てに関する情報の入手先について



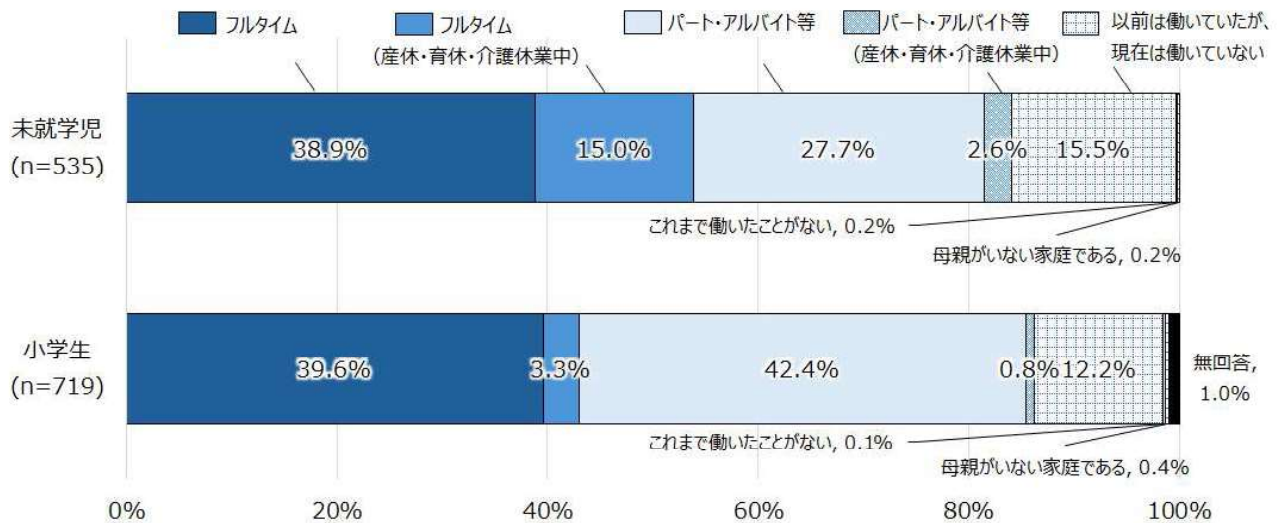
未就学児、小学生とも「友人や知人」が最も多く、「幼稚園、保育所（園）」もしくは「学校」、「祖父母等の親族」が続いています。

未就学児に関しては、約半数が「Instagram」を挙げており、子育て情報などを SNS によって調べようとする保護者の行動がうかがえます。

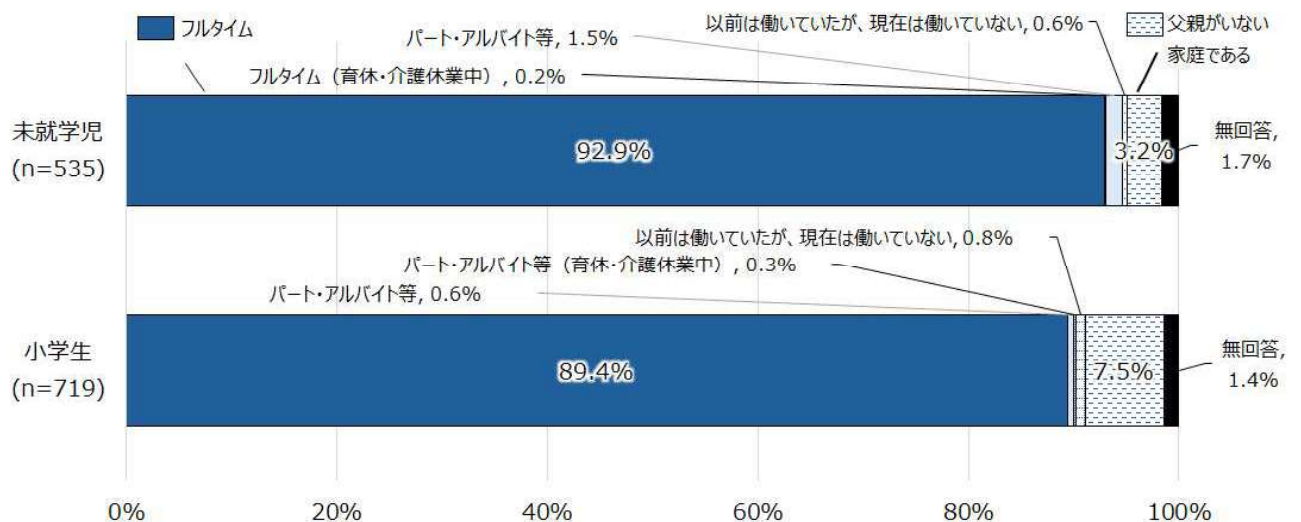
(5)両親の就労状況について

現在の就労状況

【母親】



【父親】

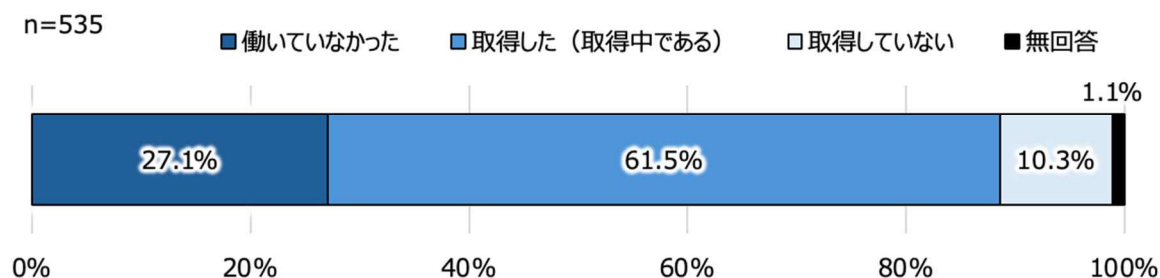


母親に関しては、未就学児、小学生とも「フルタイム」は4割程度となっています。未就学児では「育休中」が15%となっていますが、小学生では育休中は少なく、「パート・アルバイト等」が多くなっています。育児休業後に、フルタイムではなく、パート・アルバイトを選択している母親が一定数いることが推察されます。なお、父親に関しては、ほとんどが「フルタイム」となっています。

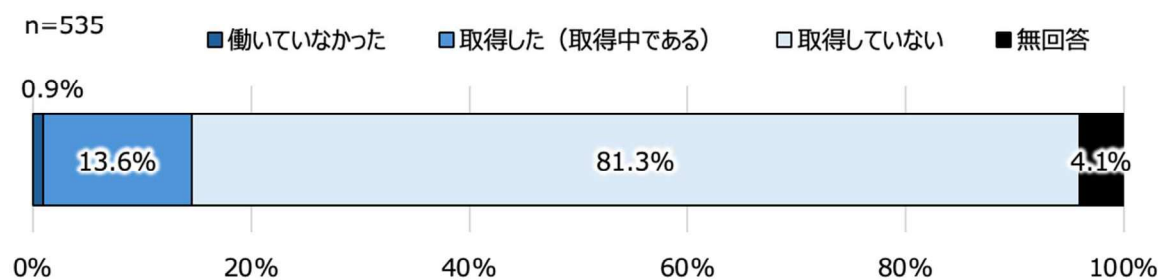
また、未就学児で約3%、小学生で約8%が母子家庭からの回答となっています。なお、父子家庭からの回答はどちらも1%未満となっています。

育児休業の取得状況(未就学児の保護者を対象)

【母親】

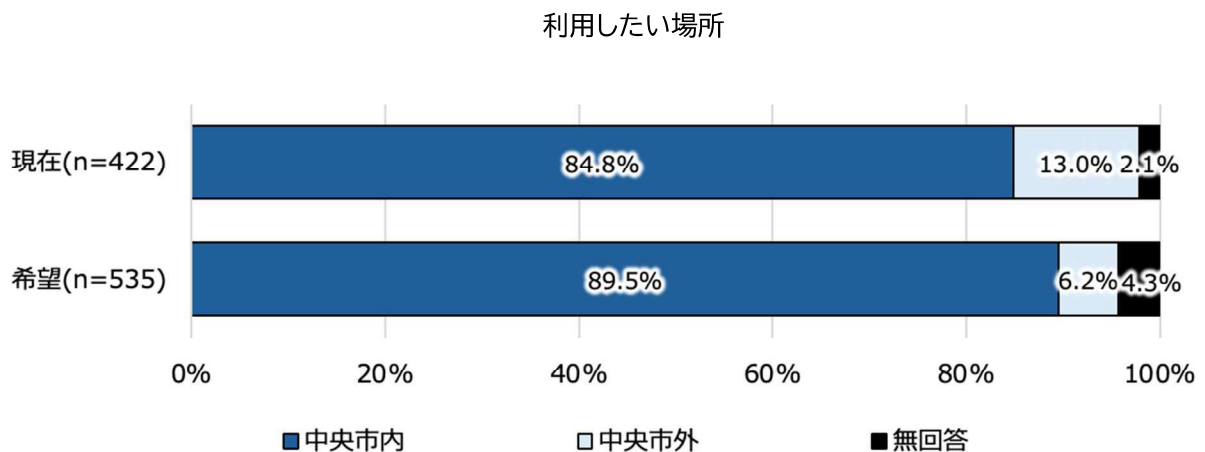
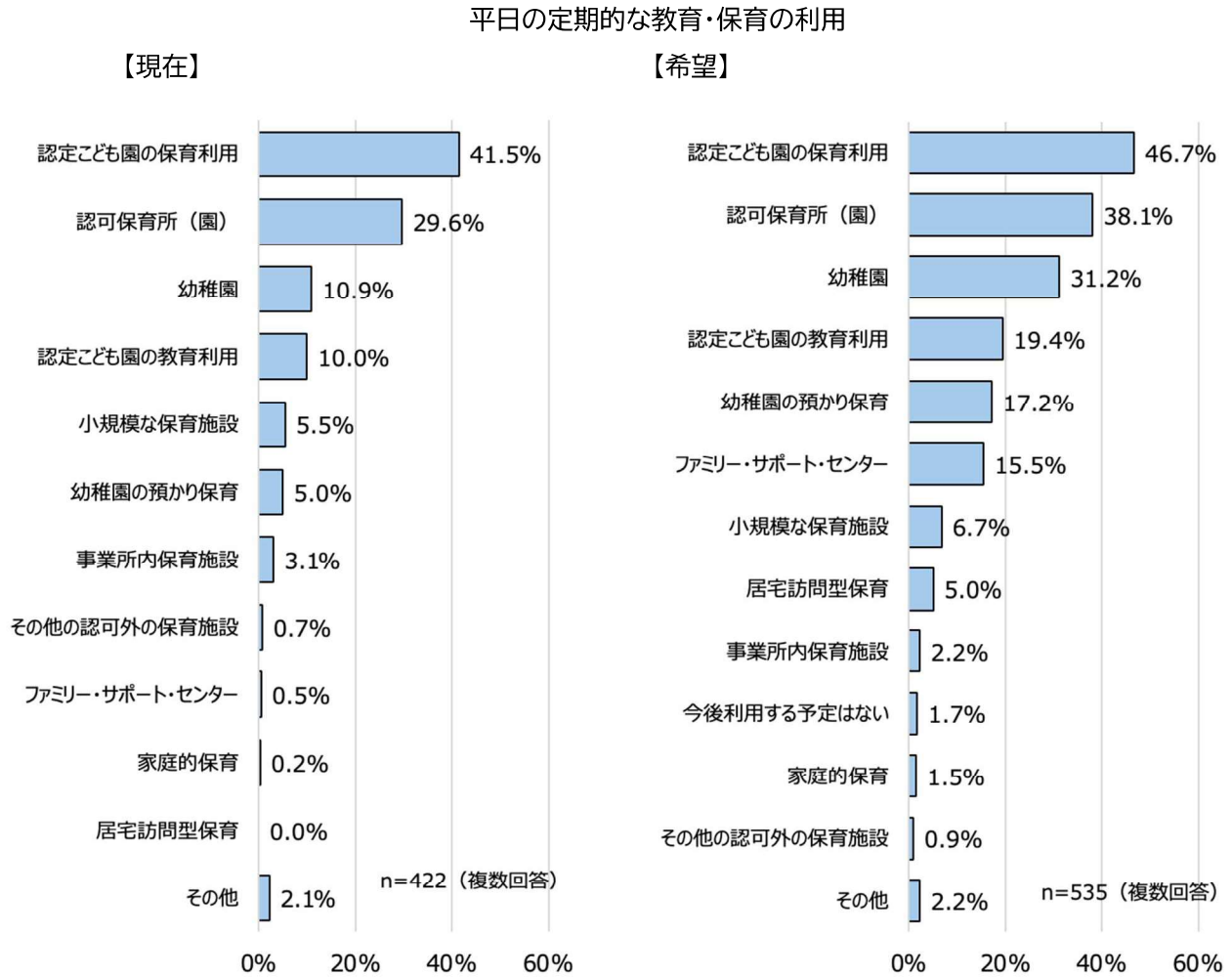


【父親】



母親に関しては、「取得した(取得中である)」が61.5%と最も多く、「取得していない」は10.3%となっています。父親に関しては、「取得した(取得中である)」は13.6%と少数派であり、81.3%が「取得していない」となっています。

(6)未就学児の教育・保育事業の利用について

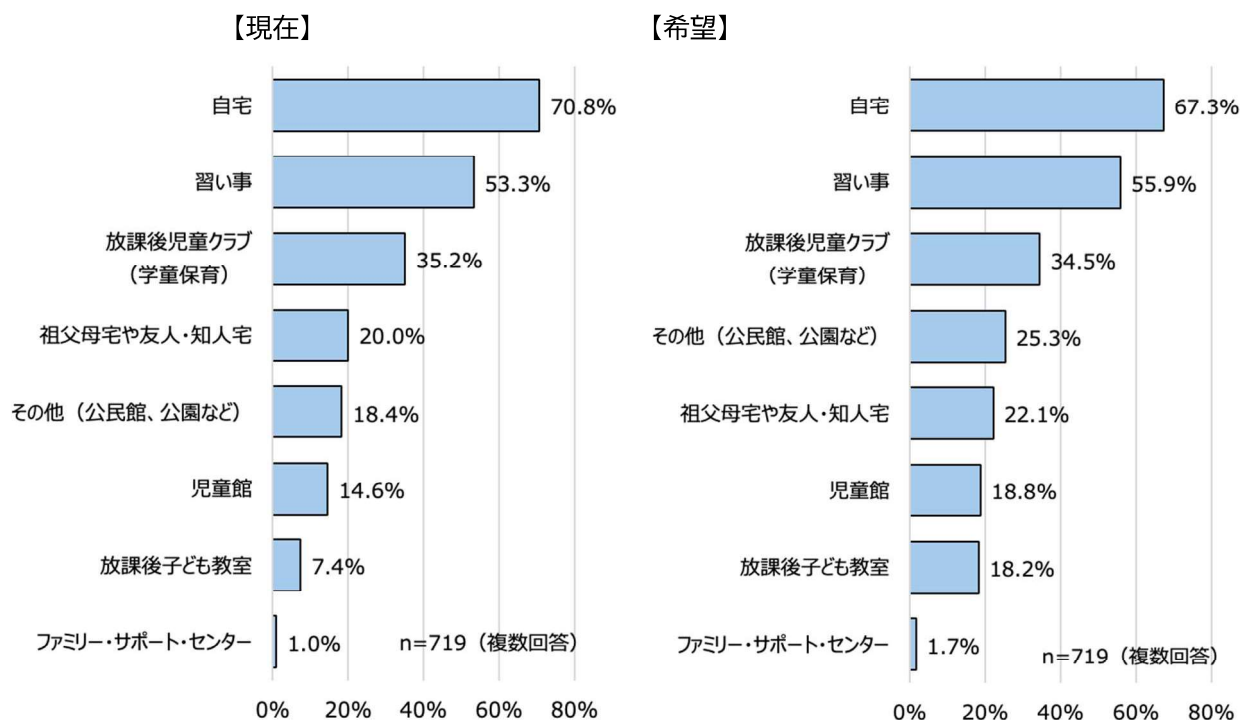


「現在」、「希望」とともに「認定こども園の保育利用」が最も多く、「認可保育所（園）」が続いています。

現在の利用場所については、「中央市内」が84.8%、「中央市外」が13.0%となっています。今後利用したい場所に関しては、「中央市内」が89.5%、「中央市外」が6.2%となっています。

(7) 小学生の放課後の過ごし方について

小学生の放課後の過ごし方

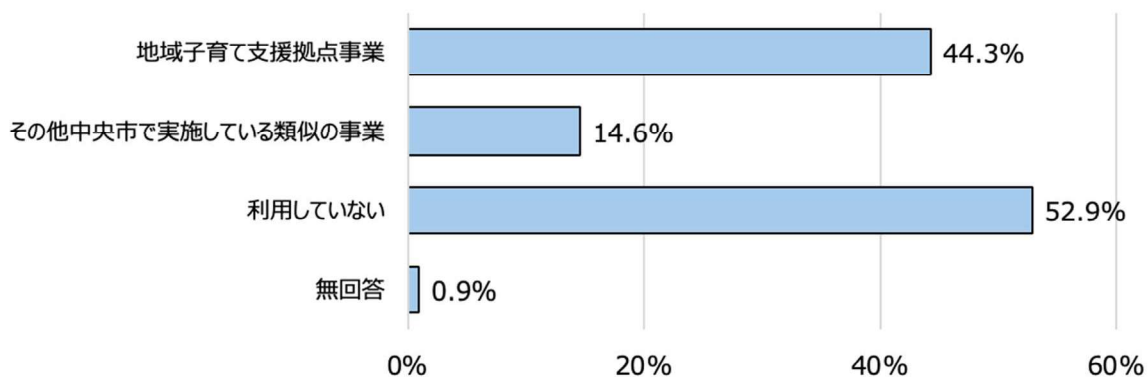


「現在」、「希望」とともに「自宅」が最も多く、「習い事」、「放課後児童クラブ (学童保育)」が続いています。各項目の現在と希望について大きな差はありません。

(8) 各種施策、事業の利用状況などについて

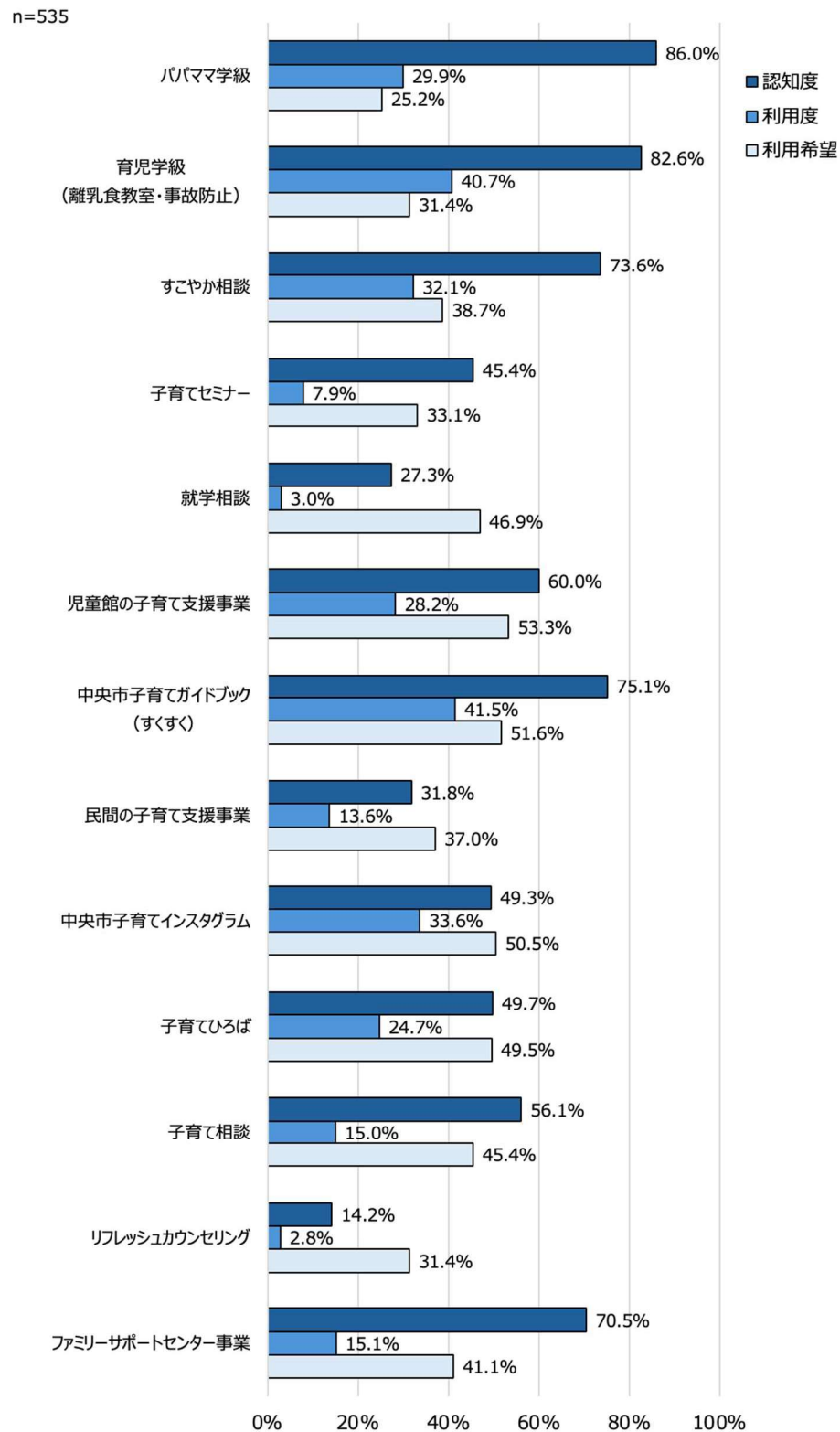
子育て支援拠点等の利用状況(未就学児の保護者を対象)

n=535



子育て支援拠点事業等の利用について、「利用していない」が52.9%となっており、「地域子育て支援拠点事業」は44.3%となっています。

各種事業の認知度・利用状況・利用希望(未就学児の保護者を対象)



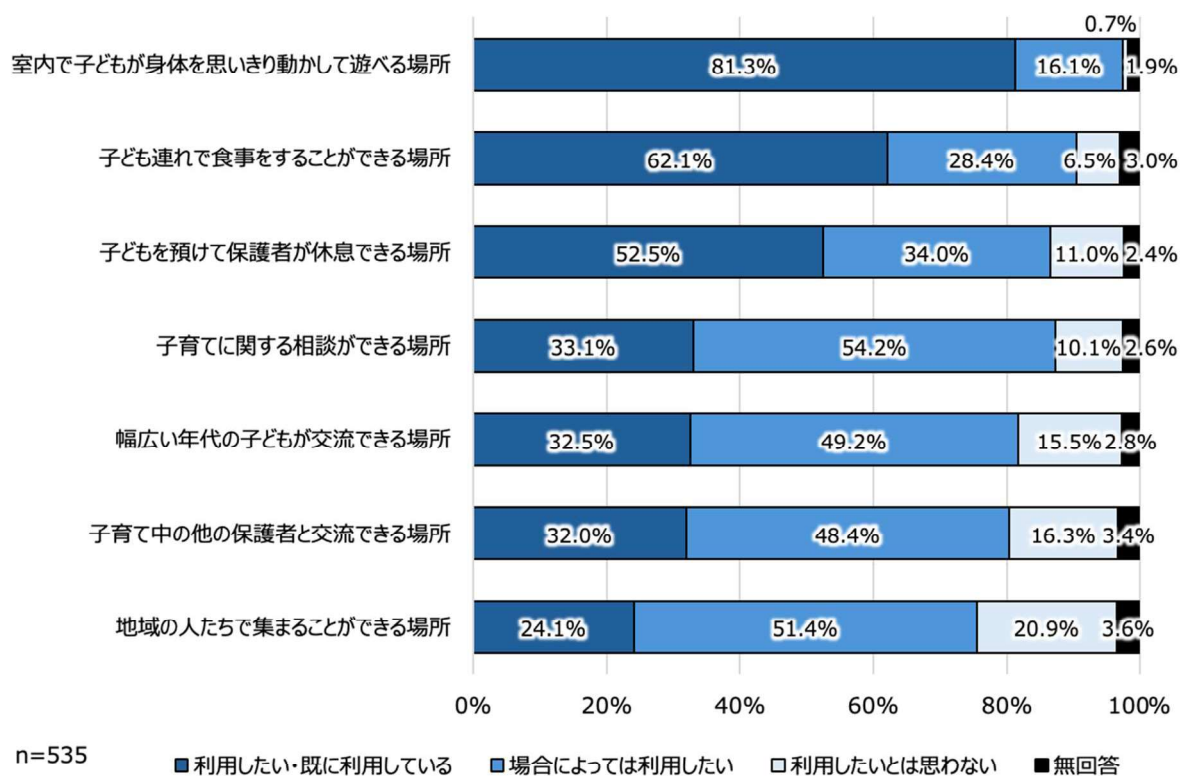
認知度が最も高いのは「パパママ学級」で、「育児学級」、「中央市子育てガイドブック（すくすく）」、「すこやか相談」、「ファミリーサポートセンター事業」が続いています。

利用度が高いのは「中央市子育てガイドブック（すくすく）」、「育児学級」となっています。

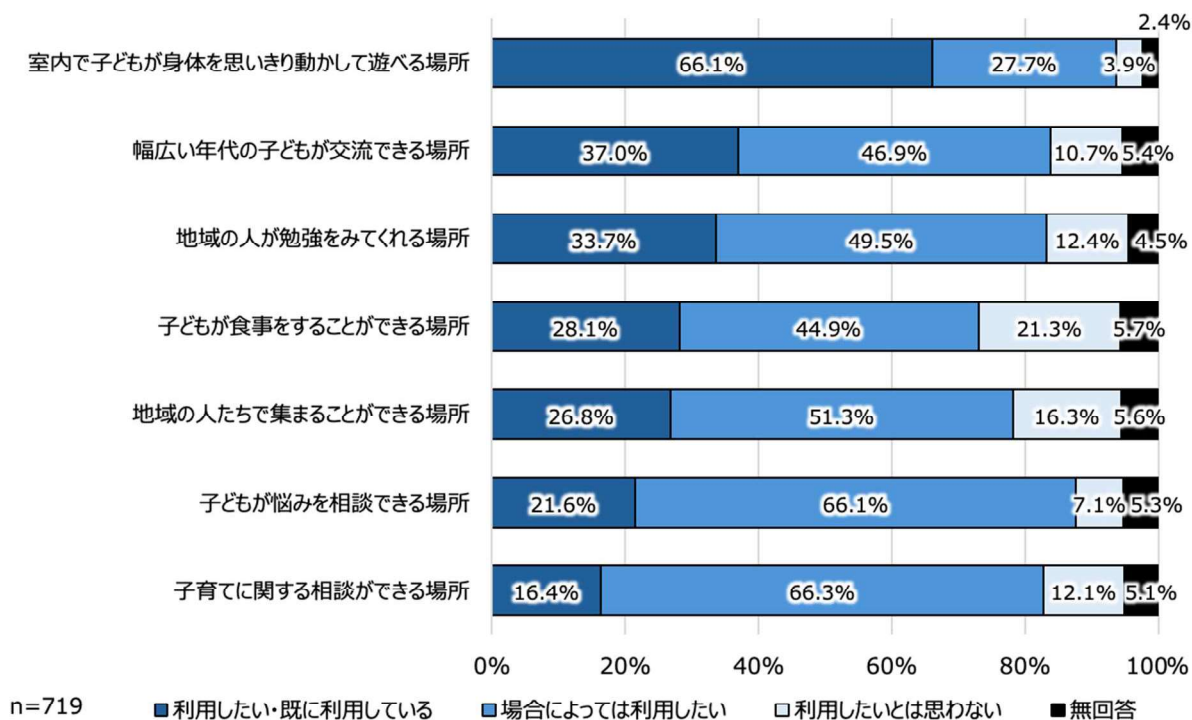
(9)場や施設の利用意向

場や施設の利用意向

【未就学児の保護者】

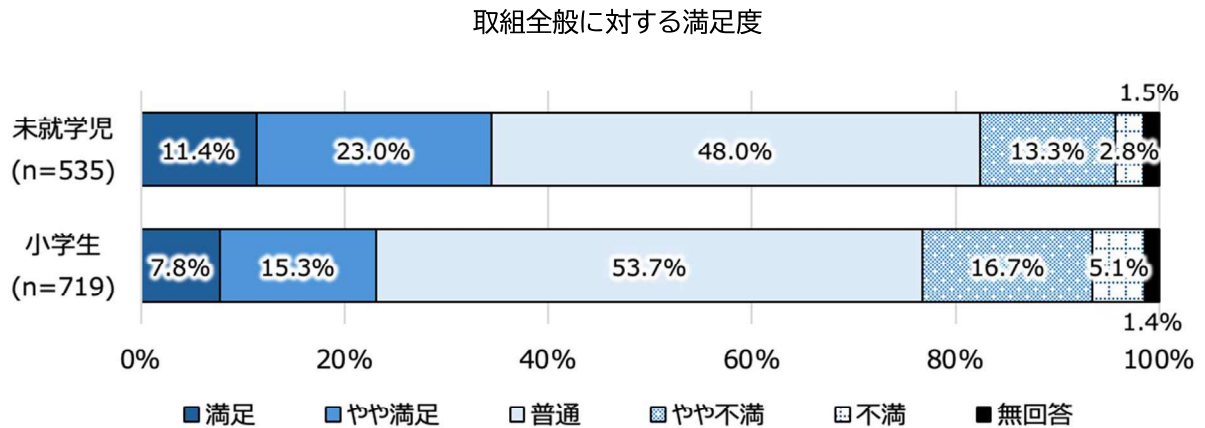


【小学生の保護者】



未就学児の保護者に関して、「室内で子どもが身体を思いきり動かして遊べる場所」、「子ども連れで食事をするところができる場所」の利用希望が高くなっています。小学生の保護者に関しては、「室内で子どもが身体を思いきり動かして遊べる場所」、「子どもが悩みを相談できる場所」が高くなっています。全体を見て、利用希望は一番低いものでも75%を超えており、場や施設の利用について高いニーズが読み取れます。

(10)市の子育て関連施策に対する満足度



未就学児の保護者に関しては、満足が11.4%、やや満足が23.0%となっています。

小学生の保護者に関しては、満足が7.8%、やや満足が15.3%となっており、未就学児の保護者の方が満足している割合が高くなっています。

また、第2期子ども・子育て支援事業計画策定時のニーズ調査（平成31年1月に実施）では、満足が6.9%、やや満足が15.2%（未就学児の保護者、小学生の保護者を合算）であったため、前期の調査と比較して満足度は上昇傾向にあります。

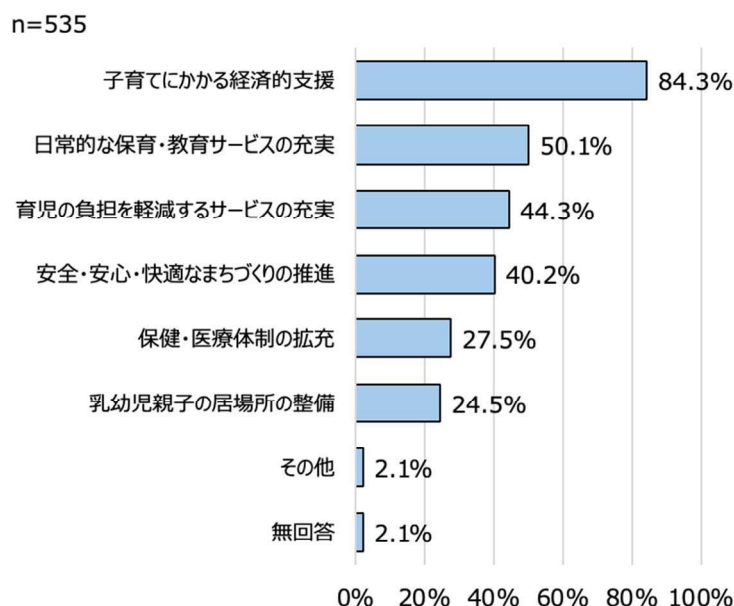


小学校での授業の様子

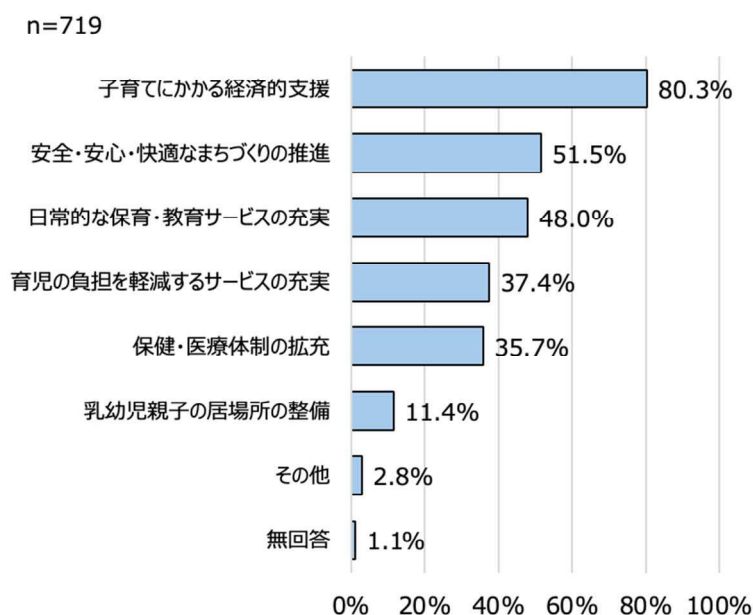
(11)重要だと考える子育て支援の方向性

重要だと考える子育て支援の方向性

【未就学児の保護者】



【小学生の保護者】



未就学児、小学生とも「経済的支援」が8割を超えて多くなっています。

それ以外では、未就学児では「日常的な保育・教育サービスの充実」が50.1%、「育児の負担を軽減するサービスの充実」が44.3%と高くなっています。小学生では、「安全・安心・快適なまちづくりの推進」が51.5%、「日常的な保育・教育サービスの充実」が48.0%と高くなっています。